

## No. 304 草薙隊（名古屋海軍航空隊）

戦前ですが、愛知に伊保原飛行場というのがありました。場所は豊田市の北部で、いまは豊田浄水場のあるところです。愛知時計電機（後の愛知航空機）の試験飛行場で、1939（昭和14）年3月に完成します。

1941（昭和16）年10月、霞ヶ浦海軍航空隊の分遣隊が到着し、後に独立して名古屋海軍航空隊（名古屋空）となります。霞ヶ浦は、当時、関東の海軍航空の拠点地で、その航空隊の一部がやってきたわけです。名古屋空は、練習航空隊で陸上機の操縦練習を行いました。

戦局の悪化に伴い、艦上爆撃機の訓練が行われるようになります。1944（昭和19）年9月のことです。艦上爆撃機というのは、航空母艦（現在の空母）から発進して、攻撃を行う飛行機のことです。

名古屋空は、終戦間際、特攻訓練の場になりました。攻撃隊は「草薙隊」と命名されました。名古屋の熱田神宮の草薙剣にちなんでいます。攻撃には99式艦上爆撃機（99式艦爆）が使用されました。99式艦爆は愛知航空機の傑作機でした。4月5日に第1陣、4月12日に第2陣が出撃しました。多くの方が亡くなりました。この飛行場と航空隊の詳しい話は、『あいちの航空史』（中日新聞社）にあります。

名古屋空は、終戦間際、特攻訓練の場になりました。攻撃隊は「草薙隊」と命名されました。名古屋の熱田神宮の草薙剣にちなんでいます。攻撃には99式艦上爆撃機（99式艦爆）が使用されました。99式艦爆は愛知航空機の傑作機でした。4月5日に第1陣、4月12日に第2陣が出撃しました。多くの方が亡くなりました。この飛行場と航空隊の詳しい話は、『あいちの航空史』（中日新聞社）にあります。

1972（昭和47）年4月、豊田海友会（豊田市の海軍出身者が組織する団体）が旧飛行場近くに「草薙隊之碑」を建立します。数年前まで毎年4月の第2日曜日に慰霊祭が営まれていました。辺りは桜の美しいところでした。

（2018年4月25日掲載）



草薙隊の碑の周りは、桜の名所でもある。

愛知県豊田市浄水にて（2018年4月撮影）